

音源の比較試聴(43)

—チャイコフスキーのピアノ協奏曲 1 番—

1. 始めに

前報(42)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と CD と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ドイツグラモフォン MG1001

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー ピアノ協奏曲 1 番変ロ短調
ラザール・ベルマン (ピアノ)

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

ドイツグラモフォン 138 822

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー ピアノ協奏曲 1 番変ロ短調
スヴィヤトスラフ・リヒテル (ピアノ)

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ウィーンフィル

PHILIPS 25PC-25

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー ピアノ協奏曲 1 番変ロ短調
クラウディオ・アラウ (ピアノ)

コリン・デイヴィス指揮ボストン交響楽団

Columbia XL 5060

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー ピアノ協奏曲 1 番変ロ短調
ゲザ・アンダ (ピアノ)

アルチェオ・ガリエラ指揮フェルハーモニア管弦楽団

配信の STAGE+から上記と同一の曲を選択します。

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー ピアノ協奏曲 1 番変ロ短調
アレクセイ・スルタノフ (ピアノ)

パヴェル・コーガン指揮モスクワ国立交響楽団

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー ピアノ協奏曲 1 番変ロ短調
ユジャ・ワン (ピアノ・指揮)

NYO-USA オールスターズ

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー ピアノ協奏曲 1 番変ロ短調
アレクシス・ワイゼンベルク (ピアノ)

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

配信のベルリンフィルデジタルコンサートホールから上記と同一の曲を選択します。

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー ピアノ協奏曲 1 番変ロ短調
アレクシス・ワイゼンベルグ (ピアノ)

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホール

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログのベルマン／カラヤン指揮ベルリンフィル盤は、1975年の録音で音質が良く、カラヤン一流の壮大な演出が冴えており、ベルマンが華麗に演奏しています。リヒテル／カラヤン指揮ベルリンフィル盤は、1962年の録音の割には音質もよく、カラヤン一流の壮大な演出をバックにリヒテルの豪快なピアノリズムが炸裂する展開です。

アラウ／デイヴィス指揮ボストン交響楽団盤は、デイヴィス指揮ボストン交響楽団の悠揚迫らない演奏をバックに、アラウの穏やかな演奏です。

アンダ／ガリエラ指揮フェルハーモニア管弦楽団は、モノラル盤ですので、当然オーケストラの立体感はありませんが、アンダのピアノは中央に凝縮して力強く響きます。

STAGE+の配信のスルタノフ／コーガン指揮モスクワ国立交響楽団のスルタノフは初めて聴くピアニストで、35歳で病没した夭折の天才と言われ、20歳のときの1990年の収録です。確かに20歳とは思えないほどの、上記のリヒテルを思わせるような完成度の高い演奏です。

STAGE+の配信のユジャ・ワンの弾き振りの演奏は、STAGE+を楽しむ(322)でも報告のとおり、ユジャ・ワンのいつものとおり華麗なテクニックを見せつけるように乗りのよい演奏で、リヒテルやワイゼンベルグのような個性的ではなく、いかにも

現代的な演奏です。

STAGE+の配信のワイゼンベルク／カラヤン指揮ベルリンフィルの演奏は、カラヤンの壮大な構成の演奏をバックにワイゼンベルクの華麗なピアノが展開されます。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールからの配信のワイゼンベルク／カラヤン指揮ベルリンフィルの演奏は、1967年の収録とあり、配信元が違っただけで上記のSTAGE+の配信と同じ演奏で、音質はSTAGE+とほぼ同等ですが、STAGE+の方がわずかに切れが良い印象です。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなってきており、収録年代、収録環境や演奏家の演奏スタイルが精度よく把握できます。アナログのリヒテルやベルマン、アンダはもとより、ワイゼンベルグやスルタノフも配信で試聴できるのはありがたいことです。

以上